

ホクコーリゾレックス®粉剤

■種類名：トルクロホスメチル粉剤
 ■有効成分：トルクロホスメチル----- 5.0%
 ■化管法指定物質：トルクロホスメチル [第1種] ----- 5.0%

■登録番号：第16886号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：1987.10.21
 ■性状：類白色粉末 45µm以下
 ■有効年限：5年
 ■包装：3kg×8袋、20kg×1袋

【特長】

- リゾクトニア病害に卓効を示す土壌処理剤で、予防的な処理で効果を示す。
- 各種野菜の苗立枯病、根菜、葉菜類のリゾクトニア病害に有効。
- 幅広い作物に適用があり、一部作物を除き、は種または植付け直前に使用可能。

【適用内容】(2024年11月末日現在)

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	トルクロホスメチルを含む農薬の総使用回数
麦類	雪腐小粒菌核病	3kg/10a	根雪前	2回以内	散布	2回以内
そば	立枯病	20kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	1回
てんさい	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	125~250g/10a分の用土約280%			ペーパーポットの用土又は覆土に均一に混和	6回以内 (育苗土壌への混和は1回以内、500倍希釈灌注は1回以内、100倍希釈灌注は1回以内、散布は3回以内)
		75~150g/10a分の覆土約20%				
		50~100g/10a分の突起板使用覆土約7%				
はくさい	尻腐病	20~30kg/10a	定植前		全面処理土壌混和	3回以内 (定植前の土壌混和は1回以内)
トマト、なす きゅうり	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	50~100g/m ²	は種前	1回	土壌混和	1回
ピーマン						4回以内 (種子粉衣は1回以内、は種前の土壌混和及びは種時の土壌灌注は合計1回以内、株元灌注は2回以内)
					うり類(漬物用)	白絹病
ほうれんそう	株腐病				全面土壌混和	3回以内 (は種前は1回以内、は種後は2回以内)
こまつな	リゾクトニア病	20~40kg/10a				1回
みずな	尻腐病	30kg/10a			土壌混和	3回以内 (種茎粉衣は1回以内、定植前の土壌混和は1回以内、株元灌注は1回以内)
ふき	白絹病	20~40kg/10a	定植前		種茎粉衣	3回以内 (種茎粉衣は1回以内、定植前の土壌混和は1回以内、株元灌注は1回以内)
		種茎重量の1%	植付前			
ねぎ		20~30kg/10a	土寄せ前 但し、 収穫14日前まで	3回以内	株元散布	3回以内
	リゾクトニア 葉鞘腐敗病	30kg/10a				
たまねぎ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	40kg/10a	は種前	1回	全面処理土壌混和	1回
みつば	立枯病	20kg/10a			全面土壌混和	2回以内 (は種前の土壌混和は1回以内)

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	トリコサメキルを含む農薬の総使用回数
だいこん	亀裂褐変症 (リゾクトニア菌)	20～40kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	1回
にんじん	根腐病	20～40kg/10a				2回以内 (は種前は1回以内、 は種後は1回以内)
ごぼう	黒あざ病	40kg/10a				1回
エンダイブ	すそ枯病	30kg/10a	定植時	1回	作条処理 土壌混和	1回
うど	白絹病	3g/株	根株養成畑 定植前		根株粉衣	3回以内 (粉剤は1回以内、 水和剤は2回以内)
とうがん	実褐斑病	30kg/10a	収穫45日前 まで		土壌表面 散布	1回
だいおう	苗立枯症	150g/10a分の突起 板使用覆土約12%	は種前		ペーパーポット 用の覆土に均一に 混和	
花き類・ 観葉植物	立枯病	50kg/10a	定植前		土壌混和	5回以内
スイトピー	腰折病					
シクラメン	苗立枯病 (リゾクトニア菌)					
チューリップ	葉腐病	10～20kg/10a	植付時			

【効果・薬害等の注意】

- てんさいの苗立枯病防除に使用する場合、ピシウム菌、アファノマイセス菌、フザリウム菌に起因する苗立枯病には効果が劣るので、これらの菌が優占する圃場での使用はさけること。
- 野菜類の苗立枯病防除ではリゾクトニア菌による苗立枯病には有効であるが、他の病原菌による苗立枯病には効果が劣るのでそれらによる苗立枯病の混発が予想される場合には、他の有効な薬剤と組み合わせて使用すること。
- ほうれんそうの株腐病防除に使用する場合、多発生条件では効果がやや劣ることがあるので、所定範囲での多い薬量を土壌混和すること。
- 間引き菜、つまみ菜に使用しないこと。
- カラー及び花はすに使用する場合は、湛水状態で使用しないこと。また、使用后14日間は入水しないこと。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本薬剤を施設で使用したあと、施設内に臭気が残る場合には換気を行うこと。

【安全使用上の注意】

- ❖ 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋などを着用すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。